





はなしなさい…って…!!

うう…うう…



言ってるでしょーっツツ!!





え…

……ッッ!!

これで  
終わりよ!



あ……ッ

体を切り離して  
わたしの炎から本体を守った!?





ぐう...っ!?

あぁッ!!



あああああああーッ!!

身動きがとれない...!!

うううう...!!

く...くるし...ッ!!



体が……っ

うう……あああああああッ!!

お尻一切られる……っ!!

……っ





あううっ！

く…ああ…っ！

うう…ああああ…ッ！！

く…苦しいらーっ！  
はやく…抜け出さないと…でも…

ふりほどけ…なっ！！







この大妖ごと  
焼滅させる！

天照核の力で……！！

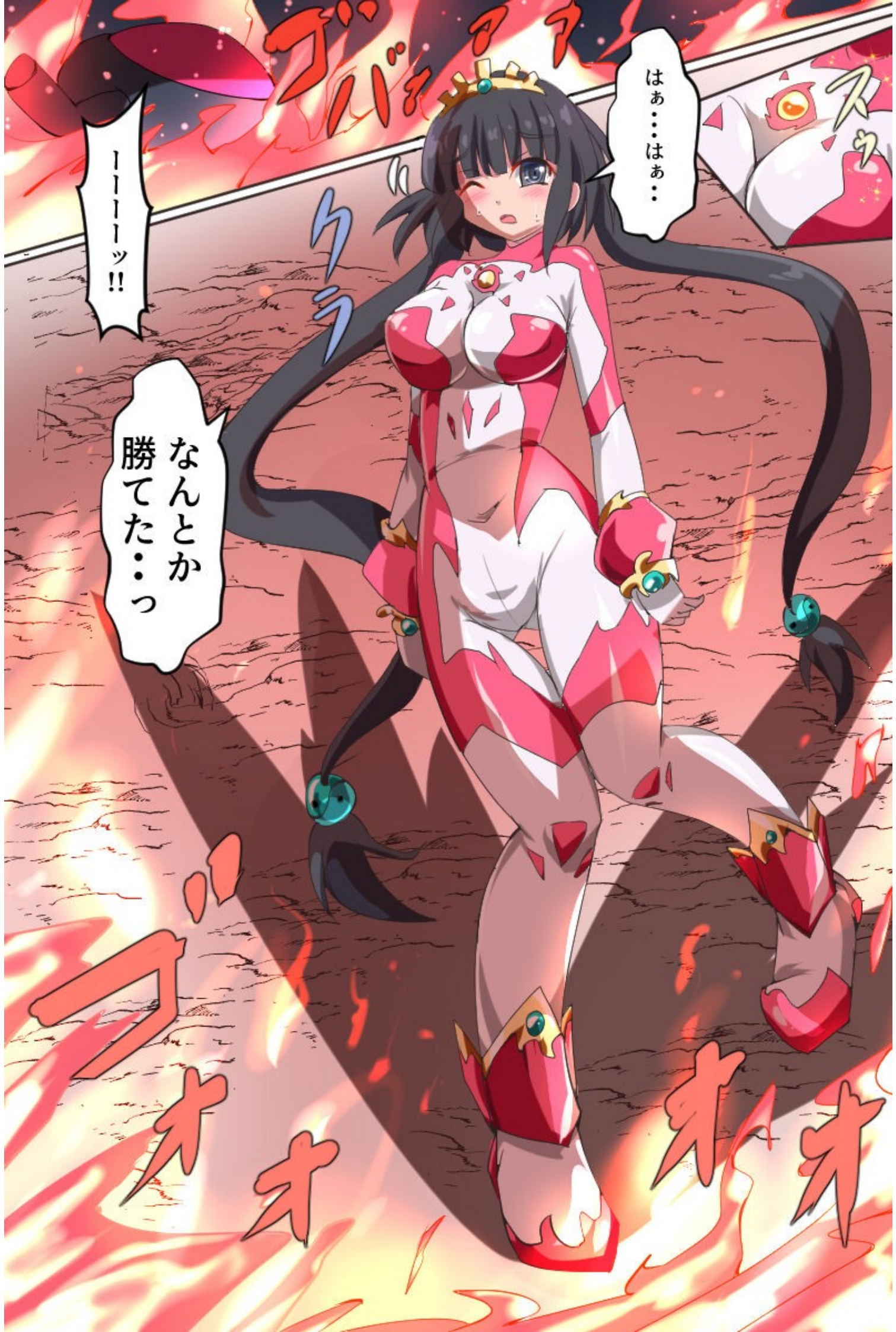
消耗が激しいけど……

……ッ!?

う……う……う……

……それなら！





ーーーーッ!!

はあ...はあ...

なんとか  
勝てた:っ

ゴバババ

クラ

アッ

オオ

オオ



ん…？

え…  
な、なに…

この煙…

は…ッ!?

そんな!?

この大妖…まだ…!

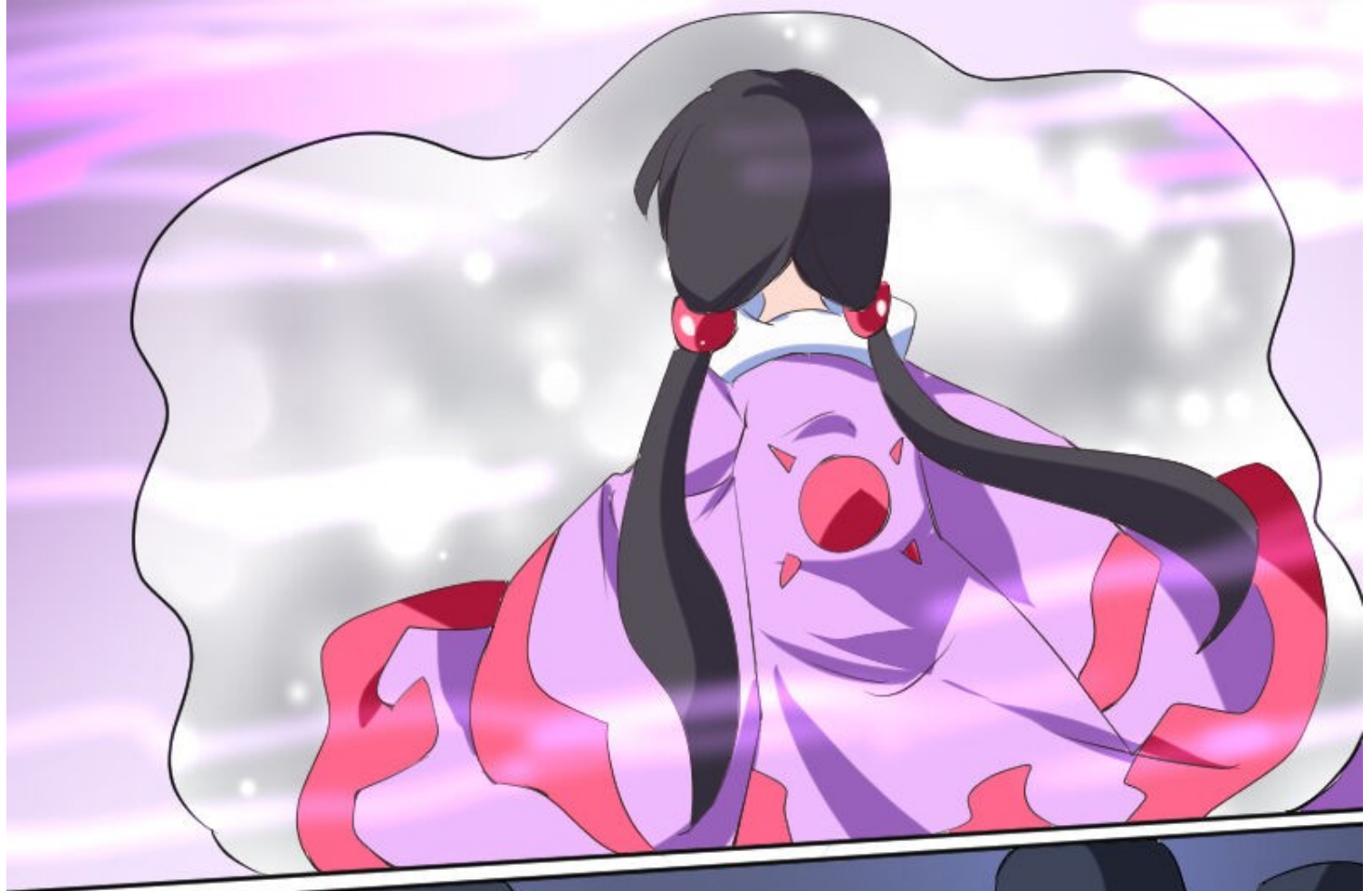
しまった…!

まさか!

毒ガス…!?

油断した…!

あ…あれ…?



あれは…わたし…？

ここ…わたしの  
部屋…

「テランヤ姫は  
今日も部屋に  
閉じこもって  
おられるなあ」

「天照核を持つ  
生まれながらに  
大妖と戦う宿命を  
持つ者は  
我々、下々と同じ  
空気を吸うのも  
嫌なのだろうな」

「でもなあ…くく」

「あんな化け物と戦うだけの人生なんて  
生きてて楽しいのかねー？」

「おいおい、何言ってるんだよ！」

「人生…って  
それは人に対して使う言葉だろ」

「あんな強大な力と  
巨大な姿に変わる者が  
人であるものか」

「姫さまも大妖と同類の…」



「化物なんだからな！」

ひ…ひどい…  
わ、わたし…だって…

好きで  
戦ってるわけじゃ  
ないのに…!!

ホタ

みんな…  
だいっ…きらいッ!!

きらら…

こんな国…もう…  
守りたく…ない…っ

又ルウ



「こゝ、「日出る国」は  
滅亡の危機に瀕していた！」

突如、出現した  
巨大な化け物

「大妖」の度重なる  
侵攻によって

世は戦乱の闇に  
吞まれつつあった！

だが……ッ！

人々は希望を  
失ってしまかった!!



みんな：  
消えちゃえば：

：あれ？  
わたし：なにを：

きゃあ…っ！

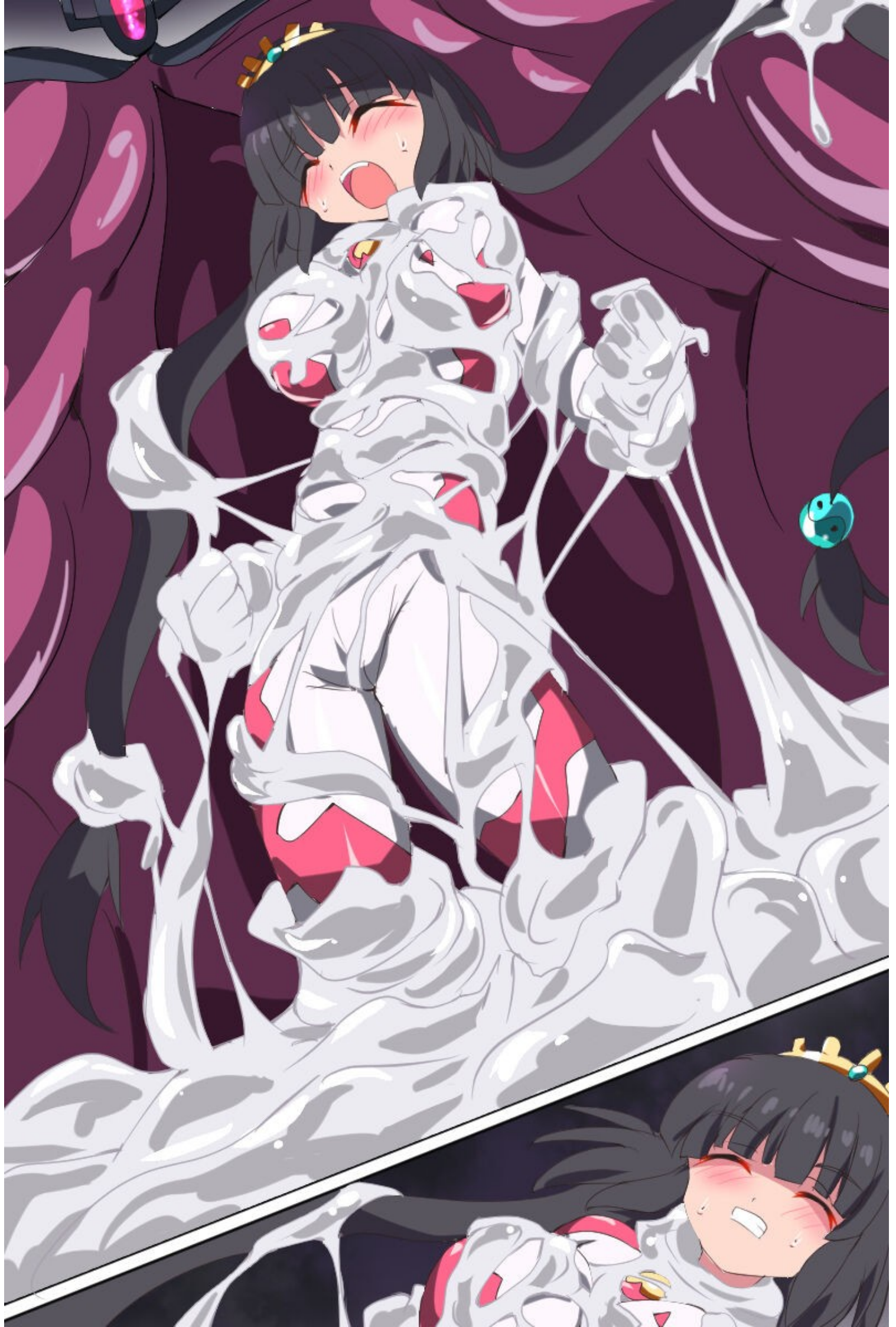
な、なにこれ！  
動けないっ！

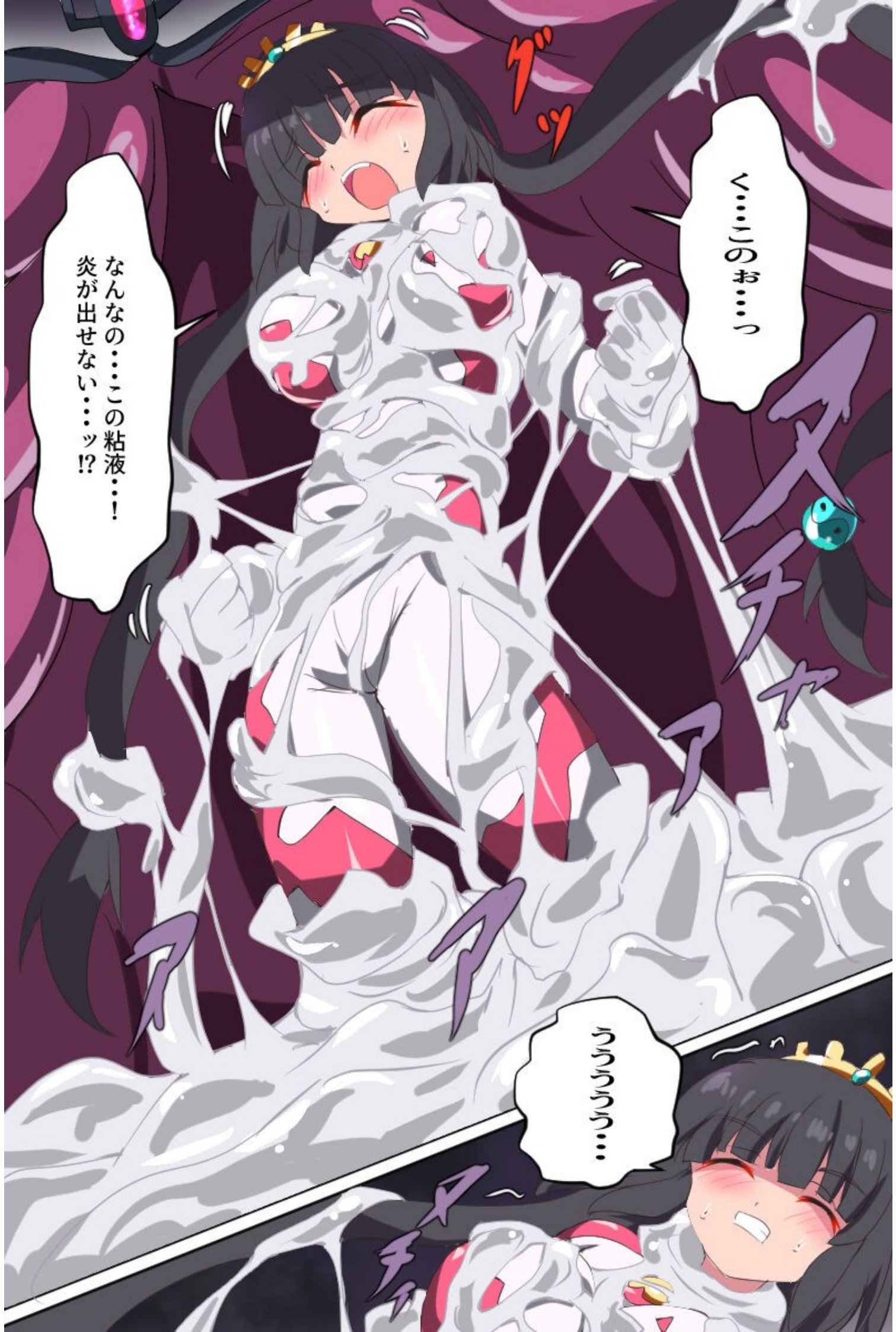
いったい  
なにが…

大妖!?

まさか、さっきのは  
あなたが見せた  
幻覚だったの!?







なんなの...この粘液...!  
炎が出せない...ッ!?

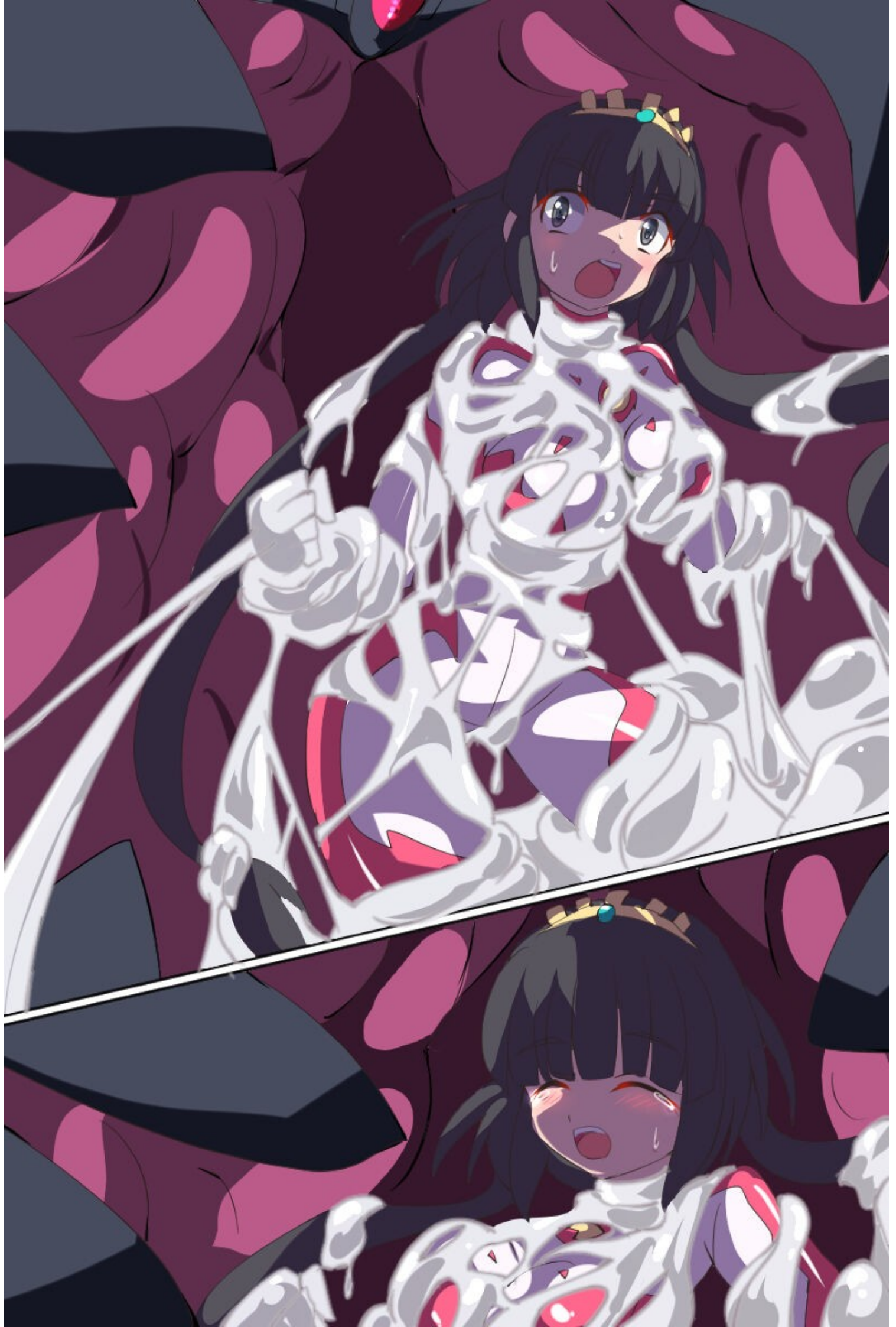
.....

.....

ア  
ア  
ア

ア  
ア  
ア

ガッ  
ガッ



な・なにをやる気・!?

まさか……ッ!?

又ゴ

又チカ

わたしを  
取り込む気なの!?

い……いや……!  
こないで……っ!

又チカ



やだ…！

うや…！

いやああああッ！！

あ…

だ…だれか…  
たすけ…っ

ヒュー…

そっか…そうだよね…  
さっきのは大妖の  
見せた幻覚だったけど…

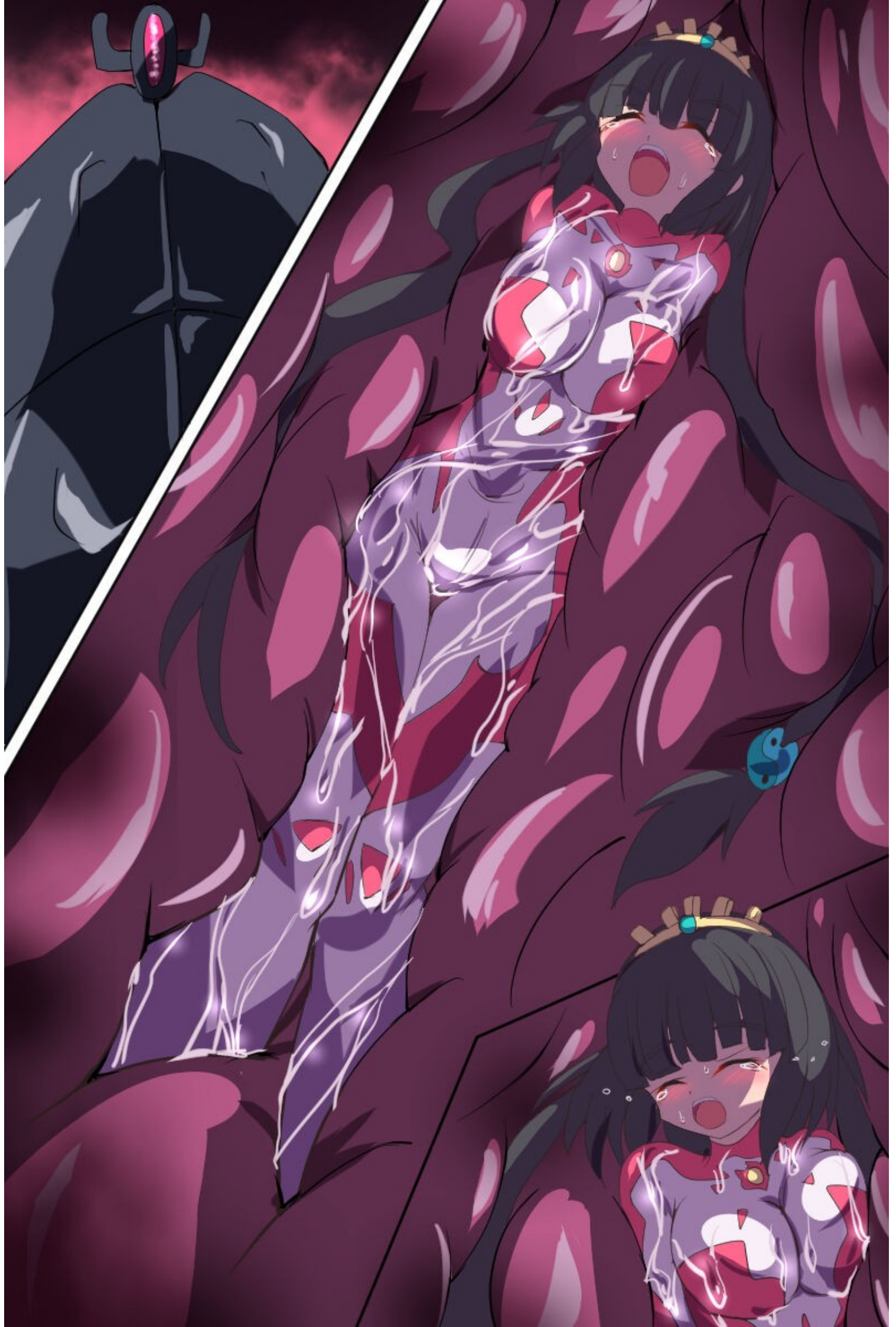
結局  
同じなんだ…

わたしは  
大妖と戦う  
為だけに  
生まれてきた  
存在で…

みんなと同じ  
世界では  
生きられない

みんなとは  
違うから…

だから誰も  
わたしを助けて  
くれないんだ…



うっうっ！

あ…あああッ！

いやあああああッ

こ、こわいっ！  
だしてええええッ！

ズ  
ズ  
ズ

キ  
ウ

ヌル

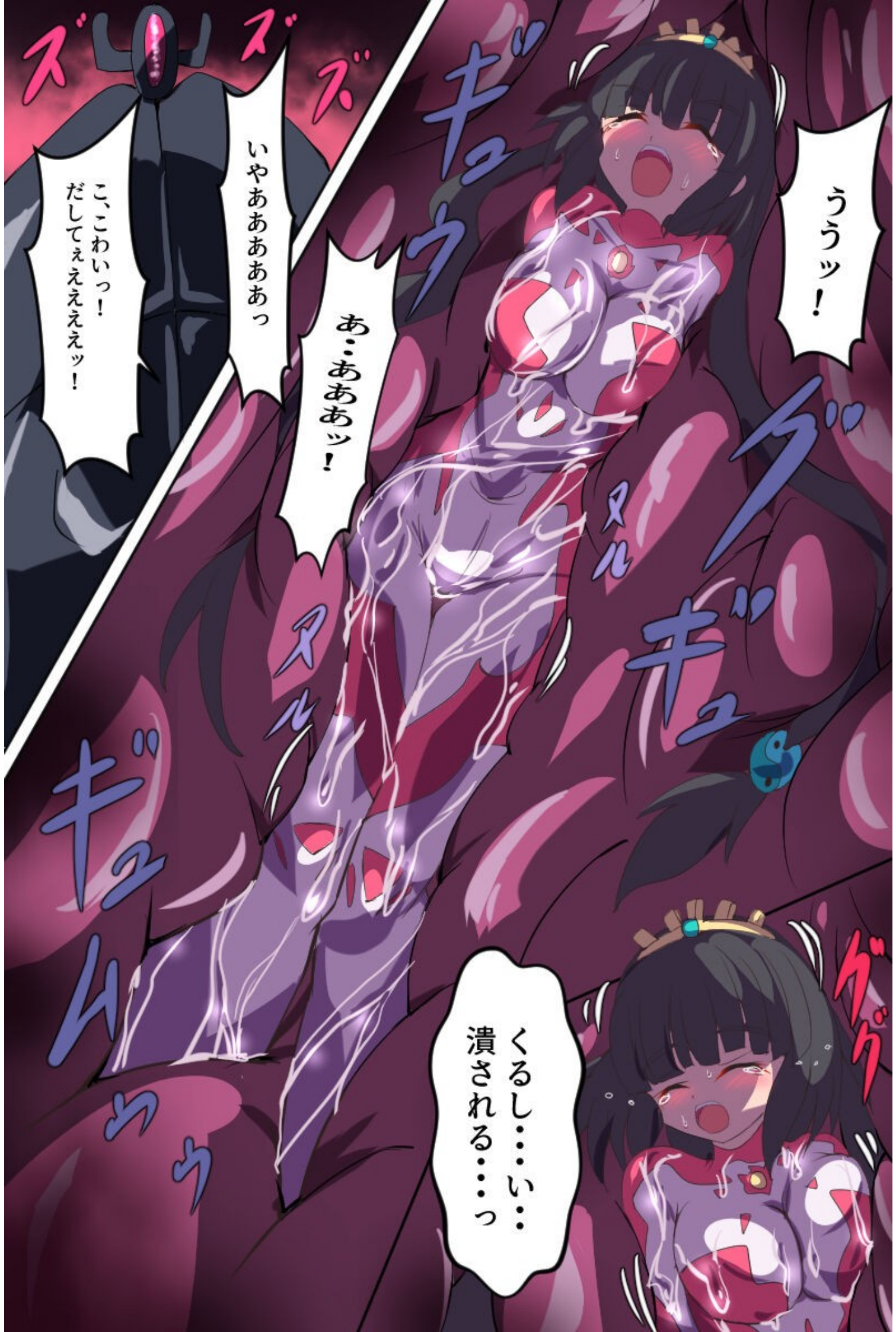
キ  
ウ

キ  
ウ

ウ  
ウ

くるし…い…  
潰される…っ

グ  
グ





天照核の

力も

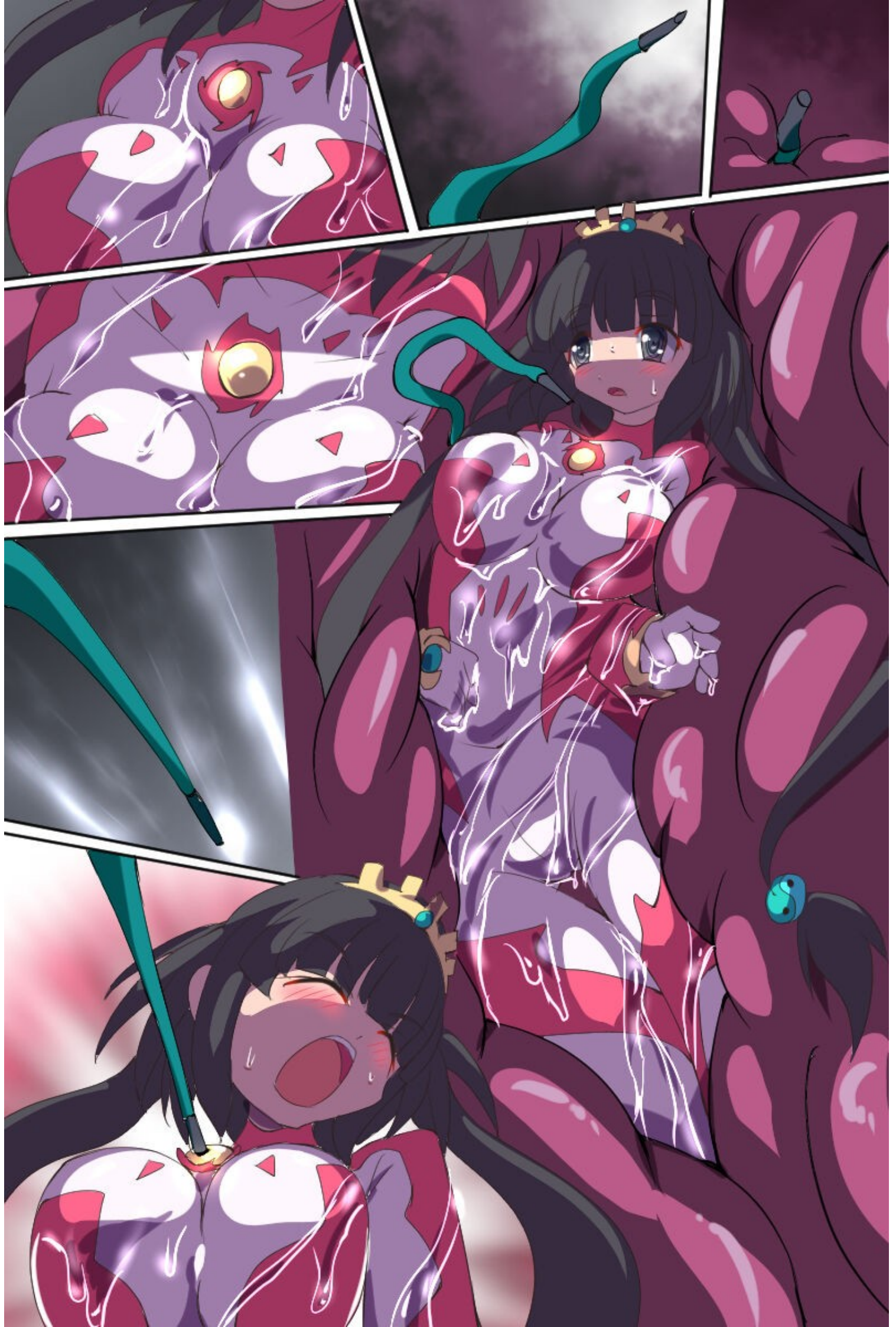
こいつでや  
使えない……っ

あうう……っ  
だ……め……!!

抜け出せない……っ!

いやッ! いやああああ!

ア  
ラ  
ア



なんとか  
脱出しないと!

ズッ  
コッ

外にさえ出れば

又ッ  
ウッ

天照核の力で。

ブルッ

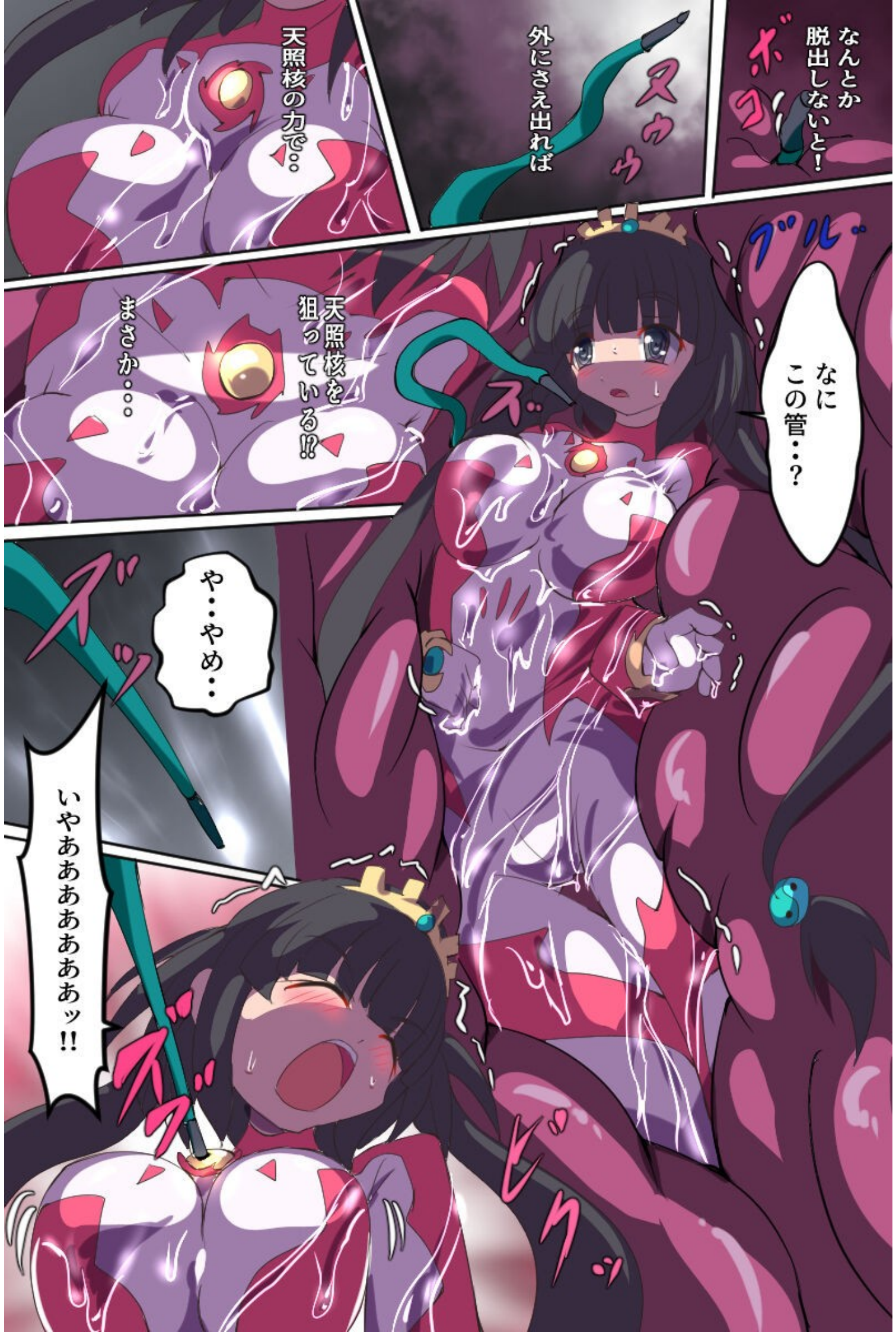
なに  
この管…?

天照核を  
狙っている!!

まてか…

や…やめ…

いやあああああッ!!





うう：  
あああああああッ!!

キュ  
オオ

天照核から  
力が吸われていく……!!

苦し……りー!

いやーいや!!

やめてえええッ!!

天照核から  
わたしの命が

直接、奪われて  
るみたい……!!

天照核から力を奪われるのが  
こんなに苦しいなんて!

こ、こんなの……耐えられないッ!

グ

グ

グ

グ





もうやめてえええっ!!

し...しん

ズ  
オ  
オ  
オ

ギョ

オ

オ

力が

命が

木

オ

あ...あああ...あああ...

うあああああッ!!

吸い尽くされる...!!

どろどろ







明けない夜  
など無く

闇を祓う  
日が昇り

そして……

大いなる

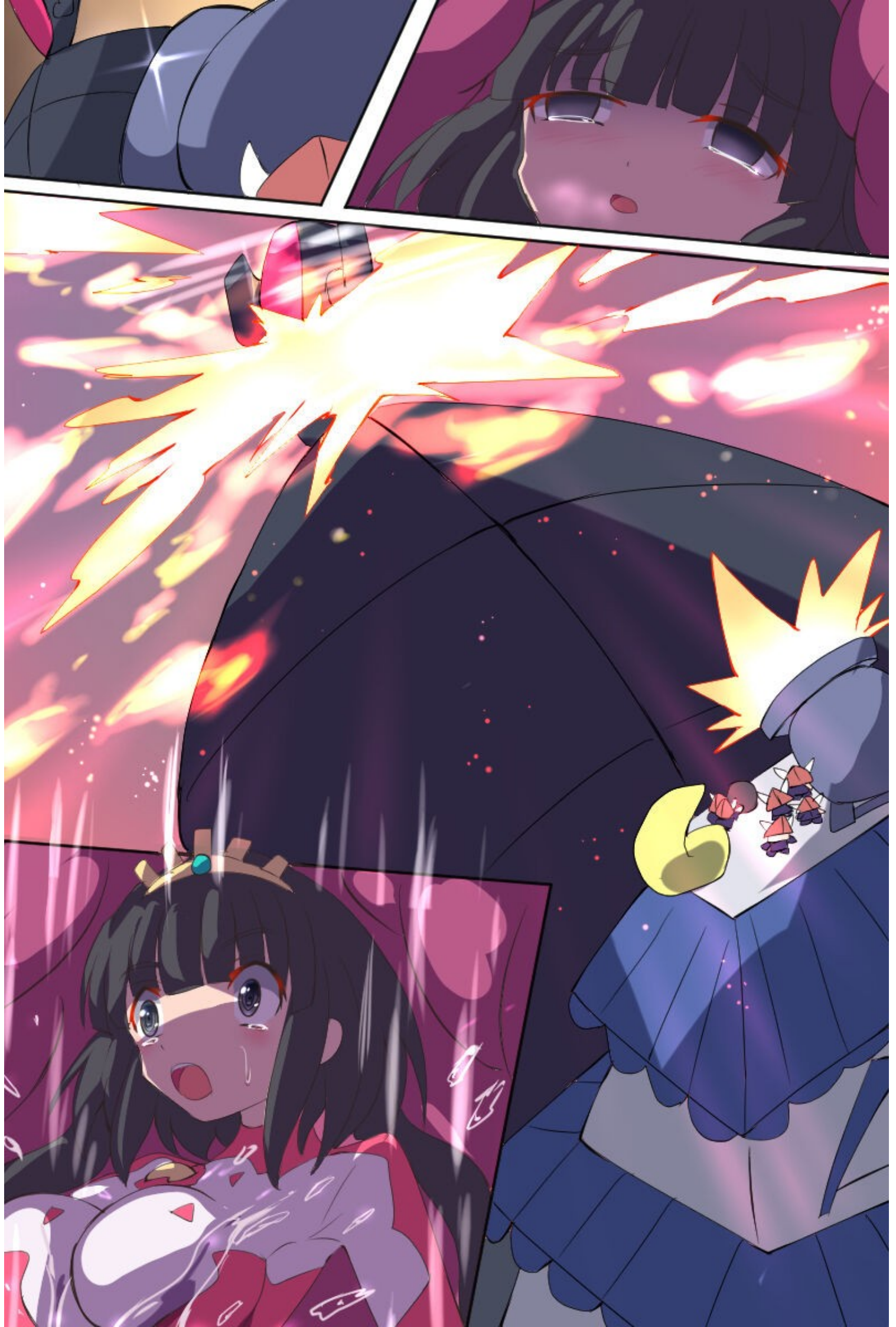
「太陽」の女神が

降臨する……!!

うおおあああッ!

死守だ!  
死守しろッ!!

あの方が来るまで  
一歩も引くなッ!



こんなの勝てない...

わたし...

もう...

ここまでなの...

アキ

!!!!!!!!!!!!!!

え!?!  
な・なにが  
起きたの!?!





その、おかしな頭を  
吹き飛ばされてーのか!?

おい!てめー!  
うちの姫さまを  
返しやがれ!!

姫さまはなあーっ!  
過酷な運命を背負わされただけの  
ただの女の子なんだぞ!

引きこもりで  
何考えてんのか  
分かんねえけど  
優しい人なんだよ!

散々、姫さまを好き放題  
鬨りやがってよお!  
なにが大妖だ!  
この淫獣がッ!

待っててくだされ!  
姫さまーっ!  
いますぐ、そこから出して  
差し上げますぞおー!

み…みんなあ…!





フッ!!

バァァァ

.....

フッ

え...?

きゃあああ!?

こいつで、頭を撃ち抜いて  
とどめを刺してやるぜ!

見たか!  
この威力!

フッ



ッ!?

ギ  
ギ  
ギ

ギ  
ギ  
ギ

あ……ああ……

な……!?  
姫さま……!

とろ  
とろ

とろ  
とろ

貴様あああああ!  
姫さまになんて事をッ!!

やろう……  
どこまで腐ってやがる!

ギ  
ギ

ギ  
ギ



姫さまの天照核から  
生命力を吸い取ったのか！

なんと惨い事を…  
許さん！許さんぞ！！

う…う…う…う…

落ち着け！  
この位置なら  
あのおかしな頭を  
狙える！

姫様に当たらないように  
狙えば…



姫さま！  
いま、お助け  
しますぞ！

みんな…  
ごめんなさい…

……



うごっ!?

ああああああーっ!!

ギョ

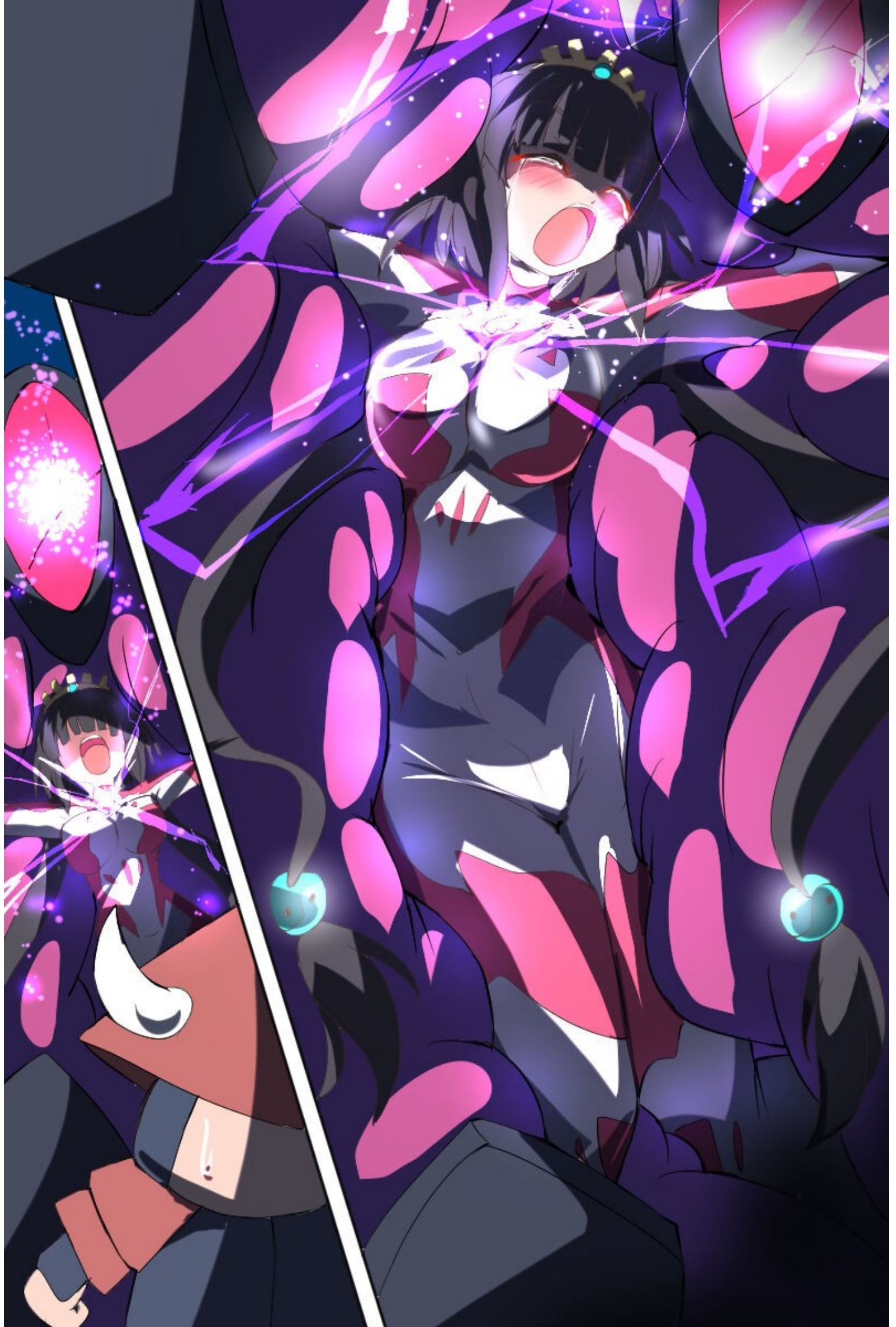
まさかッ!?

まだ姫さまの  
生命力を奪うつもりかッ!

オ

いやああああああーっ!!















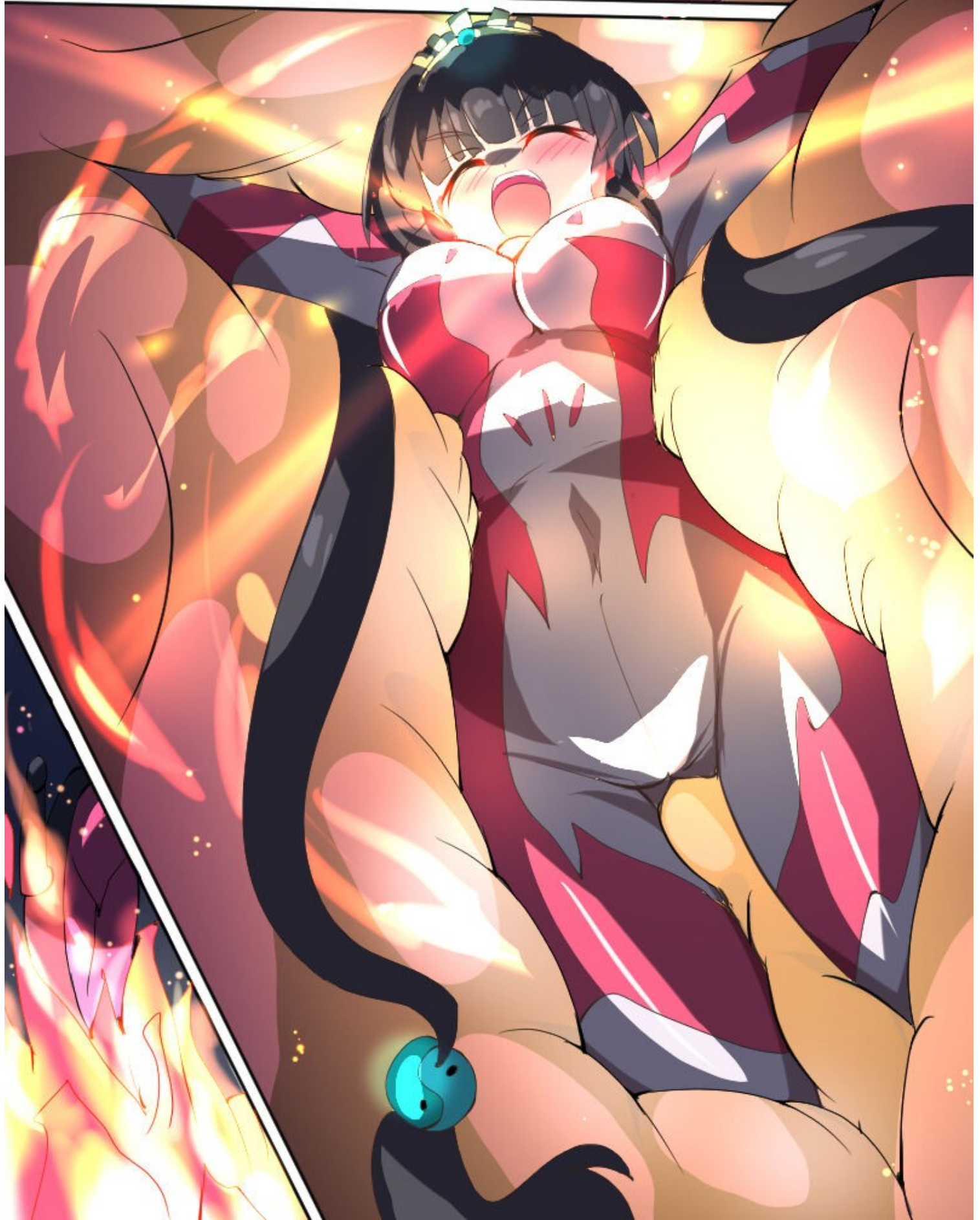


おお！  
来てくださった！

姫さまーッ！！

後は、わたしにまかせて  
みんな、下がって！！









死んじゃ……っ！

だめええええええーっ！！

お願い……  
太陽よ……！





わたしに  
みんなを守る力を与えて……!!

おお、  
傷が治っていく……

奇跡だあああッ!

…太陽の女神……!!







みんな……っ！  
よかった……

でも……



わたしには……  
もう……この大妖は……

倒せない……



…でも  
あきらめない…!!

体はまだ  
動く…けど…

もう…  
威力のある  
炎が出せない…

こいつに肉弾戦じゃ  
かないっこない…

どうすれば…

ご安心くださいああいッ!  
こんな事もあるうかと…

対大妖を想定した  
特殊大砲を用意して  
おりましたぞ!

い…いつのまに  
そんなの…

これで奴も  
おしまいだああーッ!!

うおおあああッ!!

装填完了お!

逝けえええーッ

ああ!?





外したあぁッ!?  
おしまいだあぁッ!!

いいえ  
まだ……!

ほ……!

と

タ



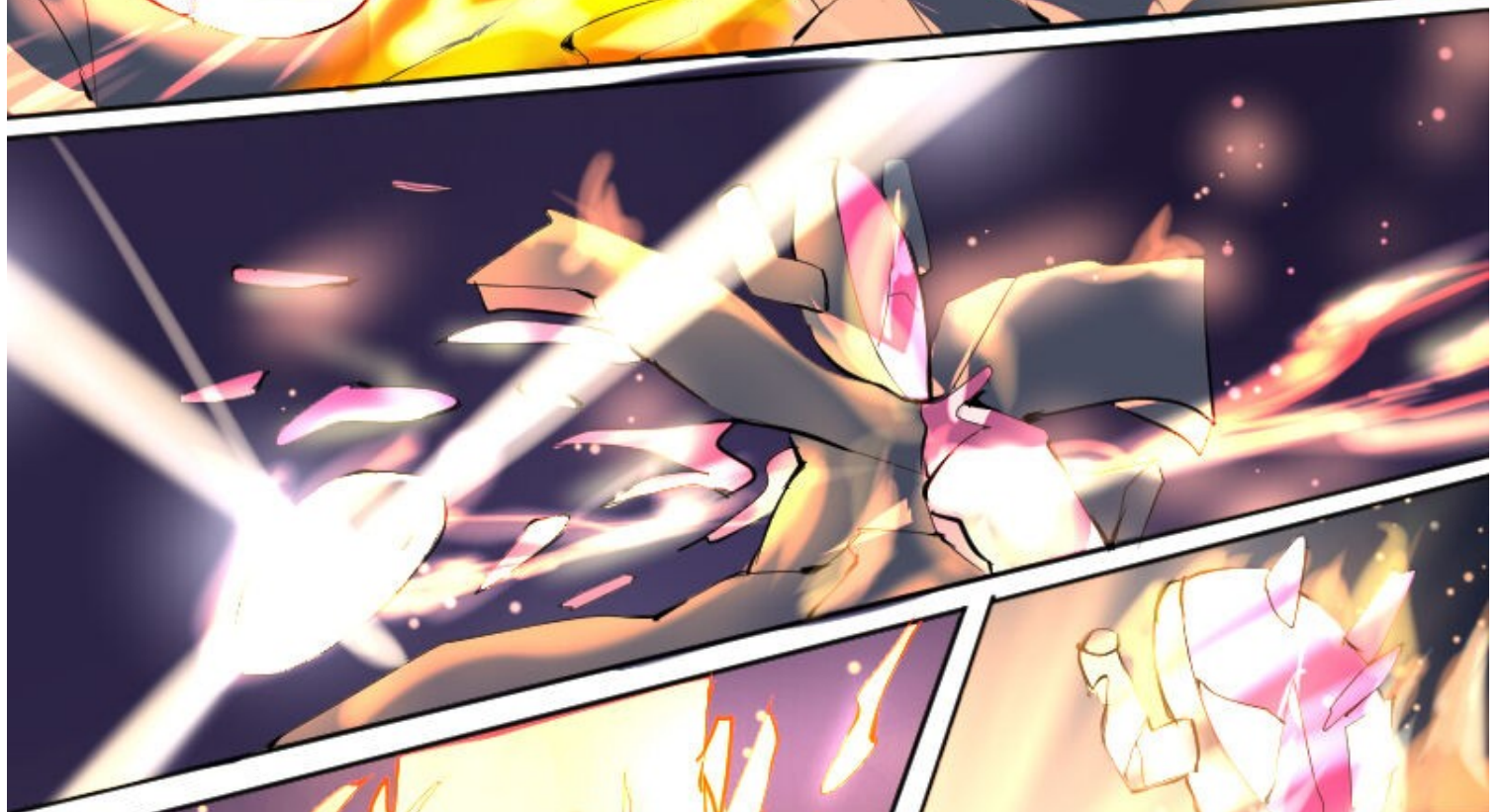
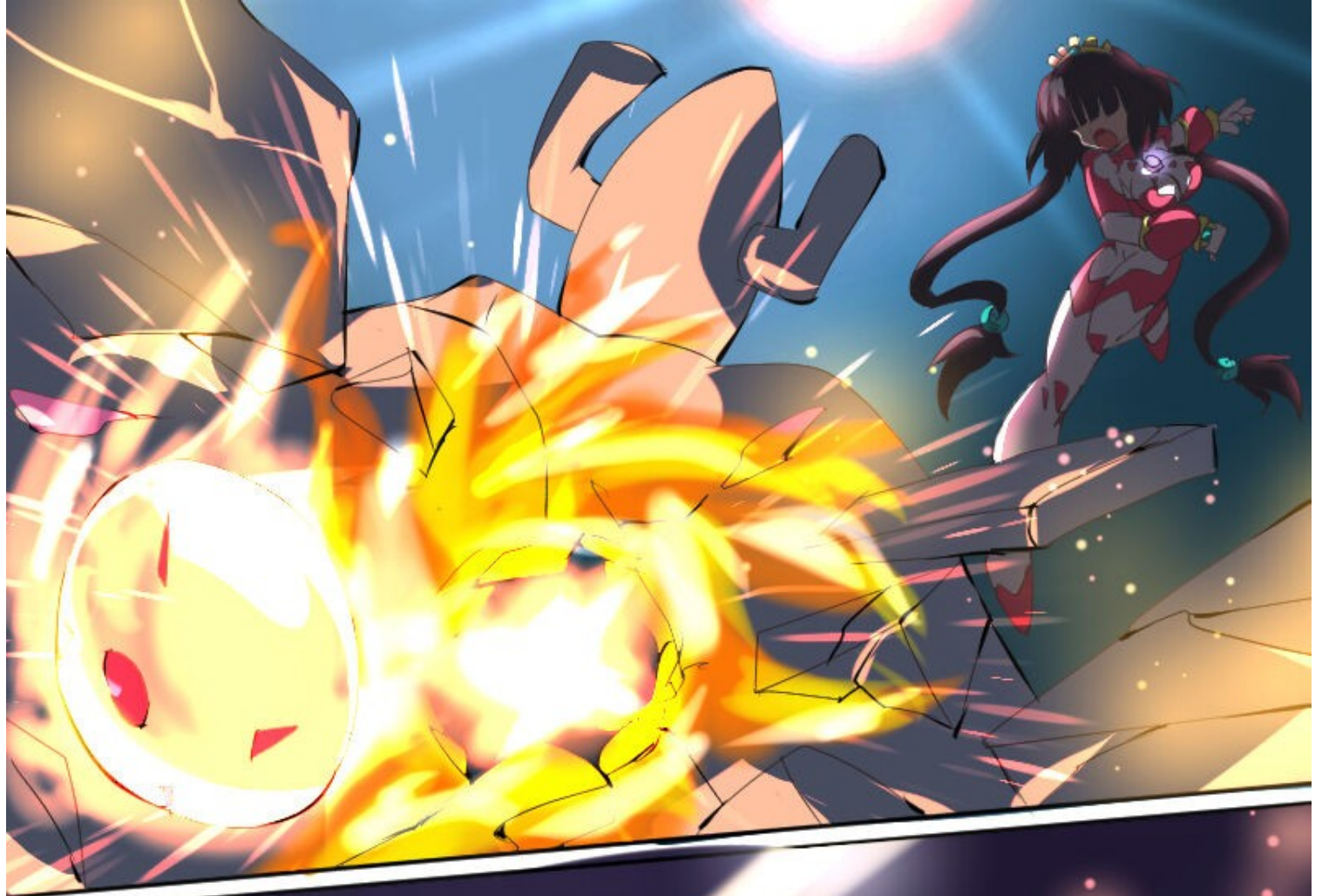


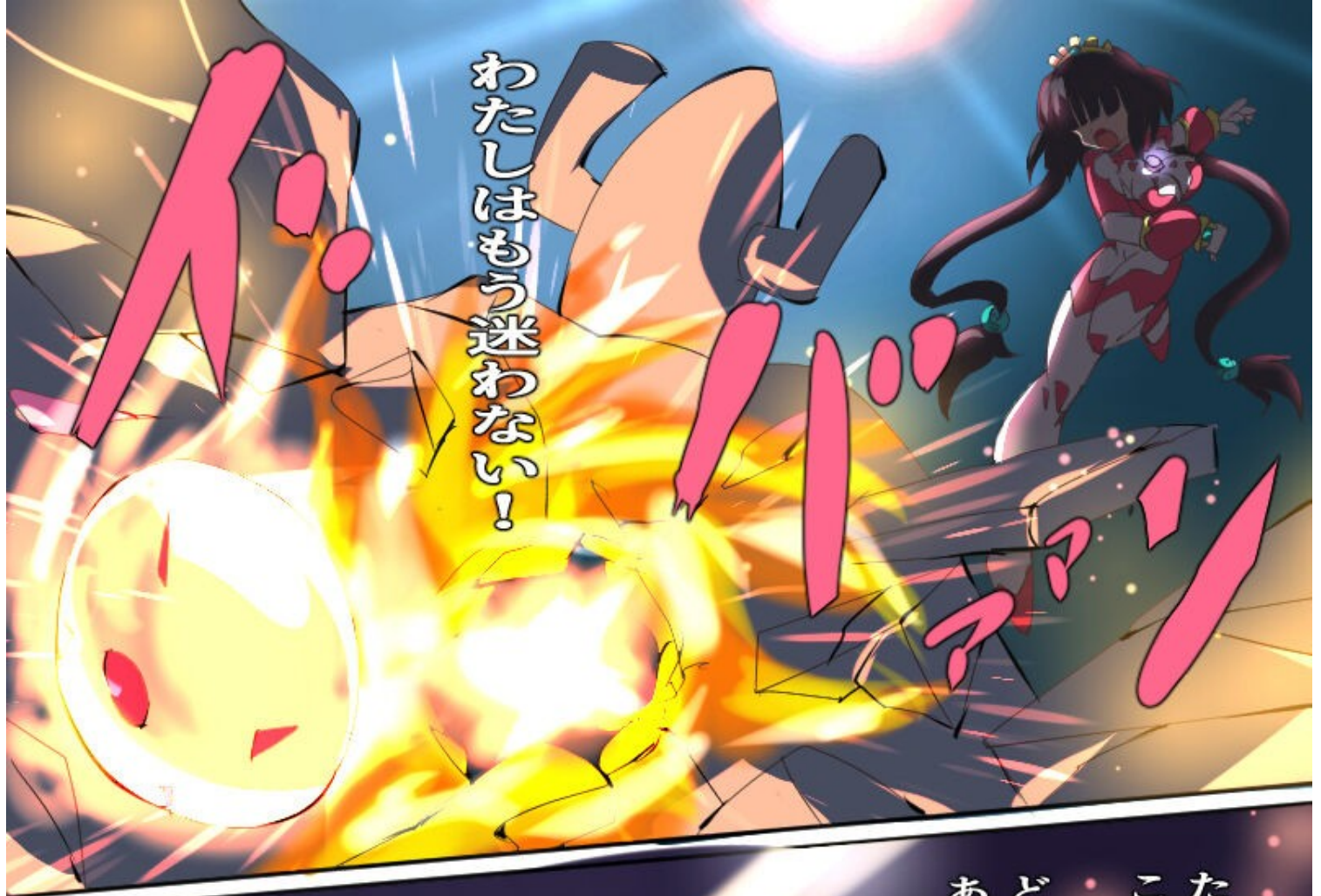


終わりよッ!!

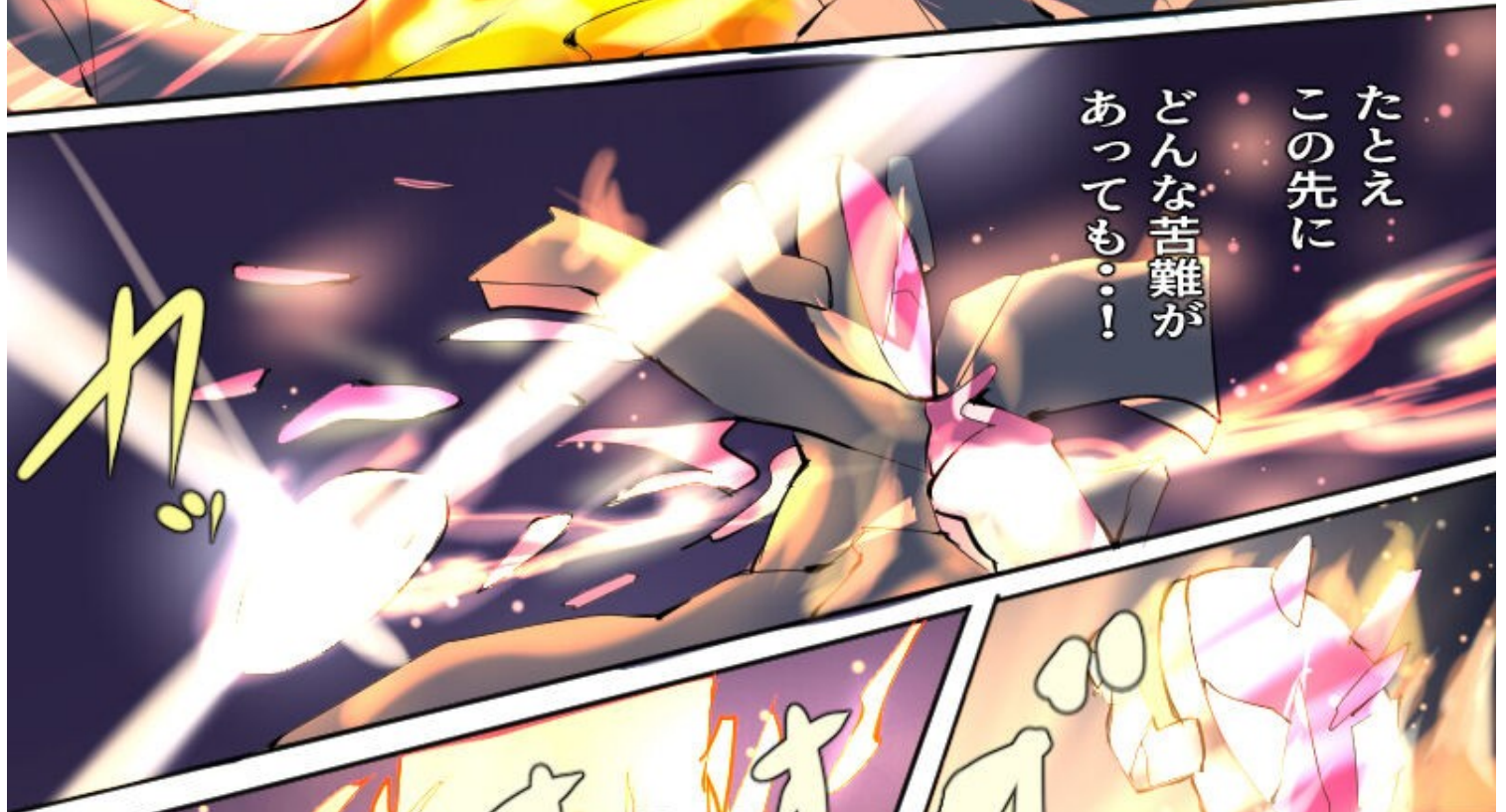
いれで...!

クワッ  
クワッ





わたしはもう迷わない！



たとえ  
この先に  
どんな苦難が  
あっても…！



共に闘ってくれる  
仲間の為に…

わたしは戦う！





「照光神姫」の  
姫として…

そして…



「照光神姫テラシヤ」として



姫さまー  
お城に戻る  
時間ですぜー

ま、いいじゃねーか



ホ  
見ろよ、城に引き籠もってた  
姫さまが  
あんな楽しそうに…

テラシヤ姫様が笑ってる時は  
いつも、いい天気なんだよなー  
今日はのんびりしようぜ

おわり




# 照光神姫テラシヤ



著者 だあーいん





わたしの炎で  
燃え尽きなさい！大妖！

……ツツ！！

さすが姫さま！  
太陽の女神！  
「照光神姫」ツツ！！

おお！



いまのうちに  
避難して！

あの大妖はまだ  
消滅していないわ！

救世主だぁー！

うおおあああー！  
我らの女神さまー！

太陽の姫さまー！

……  
ツツ！！

ガッ

♡





姫さま！  
ご武運を！

ゴォォォ

ええ、みんな  
気をつけて……

え……ッ!?





あ…ッ!  
んく…!!

ちよ…っ  
な…なに…を!

やめなせ…

きゃあああ!?





い...いやあああーッ

吸い付かないでッ!

い...痛い!!

わ...わ...わ...

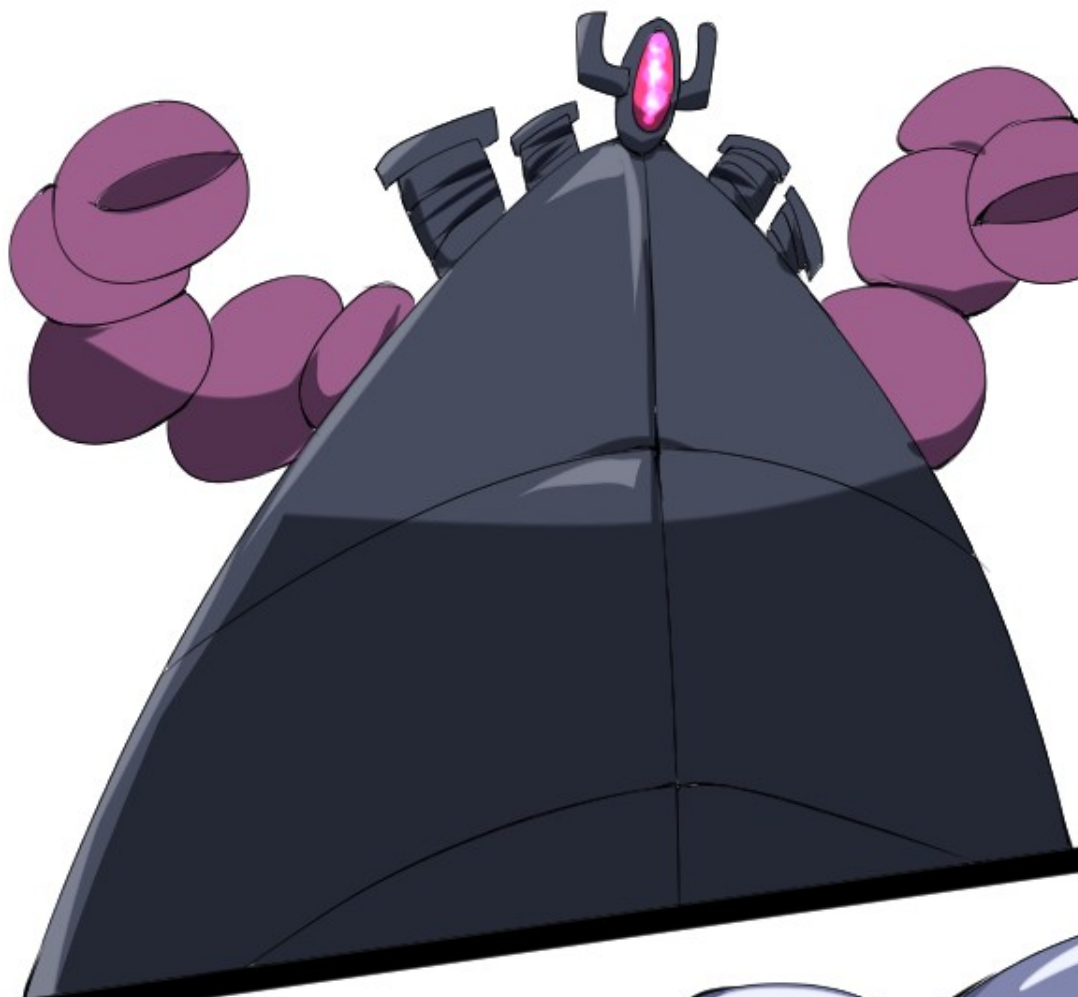
わめ...っ  
は...は...は...





【大妖】

日出る国に突如、頭れた巨大な化物  
狡猾で頭が回り、あの手この手で  
テラシヤを廻り、苦しめるのを楽しんで  
生かしておいてはいけない存在だ



【日出る兵】

日出る国を愛し  
テラシヤ姫を愛する  
自称、「女神の戦士」

戦闘中はハイになりやすい

密かに超兵器を製造している





【照光神姫テラシヤ】

「目出る国」の姫、テラシヤが生まれた時より胸に宿していた「天照核」と呼ばれる宝珠の力で巨大な女神へと変身した姿敵を焼き尽くし焼滅させる聖なる炎を操り、大妖と戦う

自身の出生と運命、  
そして他者との違いに悩む年頃の女の子で  
普段はお城の自分の部屋に引き籠もっている

